公益財団法人 国際通貨研究所
Institute for International Monetary Affairs
メールマガジン

2021 年 9 月 1 日

混沌の世界に於ける日本のあり方

愛知淑徳大学 ビジネス学部 教授
IIMA 客員研究員 真田幸光

筆者は己をわきまえて生きているつもりである。従って、今の生活に対して、小さな不満はあるが、「これでいい。これで幸せである。」と感じつつ、いつもお天道様に感謝している。しかし、この地球上に存在する人間として、「本当にこのままで良いのか？」と言う根源的な問題意識を持っている。そうして考える時、日本人としての世界市民として、今の世の中に、改善すべきことはないかと考えることがある。今回、寄稿をご依頼戴き、様々なことをテーマとして取り上げようと考えたが、以上のような背景から、世界に於ける日本のあり方についての私見を申しあげることとした。拙文にお付き合いを戴ければ幸いである。

【基本姿勢】

1. 我々は常に真理を求めなければならない。

   我々は地球上の生物として自然の摂理の中で生きているが、自然の摂理の根底の一つに、生きながらえたいとする「欲」から生じる、「弱肉強食」がある。しかし、この弱肉強食と言う摂理はややもすると強者の論理を生み、真理をも侵す要因となる。人間は、欲から生じる弱肉強食の誘惑に勝つために、真理を求めなければならないのである！！

【人間としてのあり方】

2. 真理を求める為には、我を、そして、私欲を捨てなければならない。

   その為の心の支えとして、「自らが自らを強いと思う者は他者に優しくならなければならない。一方、自らが自らを弱いと思う者は他者を頼らず自らの力で生き抜く心意気を持たなければならない」と言う意識を常に持ち、遮二無二生き抜くのである。

3. そうした中、リーダーとなる者は、慎重に、論理的に、鳥瞰図的に、複眼的に現状を見つめ、現状を客観的に認識しなければならない。

その上で、その現状認識によって導き出された課題を克服する為の戦略を立て、どの課題をどのような順番で処理し、また如何なる戦略をいつ実行するかを決断する勇気を持たなくてはならない。しかし、決断するだけではいけない。その決断したことを、魚が水の流れを読みながら生きるように、適切なる「時」と「場」を図りながら、一気に、果敢に行動に移さなくてはならない。そして、こうした分析、決断、行動の全てに対して、「責任を取る=腹を切る覚悟=」を持たねばならない。こうした素養と意識、そして意思のない者はリーダーとなるべからず。

4. 真理を求める為には、決して他者を肉体的に傷つけてはならない。

即ち、暴力は如何なる要因があろうとも否定すべきであり、特に強者が強者の論理を以て、他者を肉体的に傷つけることは絶対に許されない。そして、可能な限り、他者の心も傷つけてはならない。しかし、これは難しい。何故ならば、人の心の傷は見えず、また、何を以て、他者の心が傷つけられたかを判断することは難しいからである。この辺が自然の摂理の中で生きる人間の限界であろう。

【現実の生き方に関する基本姿勢】

基本姿勢と人間としてのあり方は、「理想論」である。しかし、人は理想を高く掲げない限り、その極みを知り、そこに到達することは叶わない。従って、理想を求めて生き抜くしかない。しかし、我々には厳しい現実がある。そこで、

5. 理想と現実の折り合いをつけなければならない。

現状に対して、理想との格差はどの程度あるのかを先ずは知らなくてはならない。その上で、当面、どこまで理想に近づけられるか、その目標を設定していかなければならない。その目標を達成する為の詳細なる具体的戦略を立てなければならない。これを実行する。そして、その成果、効果を見極め、成果が上がれば、更なる理想へ、成果が上がらなければ、戦略の見直しを図り、しつこく、しつこく、しつこく理想に向けて挑戦をし続けなければならない。

【日本が求めるべき理想の姿】

我々日本人、一人一人が人 、人としてすべきことの理想は上記に掲げた通りである。それでは、そうした日本人一人一人の行動と努力を現実との折り合いをつけながら、如何にして具現化していくのか、その未来像に関する私見を提示したい。

少しずつ変化、敢えて厳しく表現すれば、悪化しているとはいえ、日本人には、そして日本には、総じて、

☆ 他者を思う優しい心がある。

☆ その他者を思う優しい心が気配りを生み、人々が使いやすいものやサービス、人々が安心出来るものやサービスを提供すると言う心に繋がっている。

☆　こうした結果、日本には、世界が必要とするものやサービスを量と価格を安定させながら供給していくと言う土壌がある。

☆　幸いなことに、こうした特性を民族全体として持ち合わせているところはない。そして、日本人は、これを、「おもてなし」の心、「三方良し」の精神などと自らも認識し、これに誇りをも持っている。

と言える。従って、こうした現状、特性を意識すると、日本が求めるべき理想の姿は、次のようになろう。

「世界がもの凄く強く必要としているものやサービスの中で、日本人しか、日本企業しか、日本しか出来ないようなものやサービスに出来る限り絞り込み、それを正当に評価してくれる相手に対して、量と価格を安定させながら供給していく。その結果として、日本は世界に必要とされ、きちんと尊敬までされなくとも一定の評価を受けながら、存在していく国民、企業、国家となることを目指す。尚、この際に、意識的には、質を重視し、量を第二順位とすることを前提とする。」

具体的には、第一次産業も含めたものづくり、きめ細かい心配りのある第三次産業を意識しつつ、

6. 可能な限り、大量生産大量販売型の「規模の経済性」を追うビジネスを目指すものの、敢えて、量には拘らず、先ずは量よりも質に拘るビジネスを展開する。

7. 上述したことが可能な分野は、核心部品、高度の量産試作も含めた製造装置、高度素材、安心安全の飲食料にあり、更にグローバルメンテナンスの分野に日本の活路はある。

8. こうしたものやサービスのビジネスを展開するに際して、日本は、マニュアル化出来ないものづくりやサービスの提供をむしろ大切にしつつ、しかし、それらに対してマニュアル化していく努力を加えながら、「産業」としてきちんと定着させていく。マニュアル化出来ない技術を持つことが日本の特性であるとともに、そのマニュアル化出来ない技術をマニュアル化しようと努力する民族であることが日本の最大の特徴であり、これを最大限生かして、国際社会から一目置かれる国家となるべきである。

9. このようにすれば、日本人しか、日本企業しか、日本しか出来ない技術をベースとしたものやサービスの提供と言うことになり、それを提供する場は日本になるはずである。結果として、日本に居ながらにして外貨を稼ぐ人、企業が日本を支え、ここに、日本国内にも雇用が残り、そして稼ぎ、稼いだ上で適正な税金も払い、その税金で日本国内を更に住み良い世界に高度化し、その余剰資金がもし、生まれれば、さらにそれを海外の社会安定の為の基金として供出して行けば、日本は一層世界から尊敬される、少なくとも評価をされる国となろう。

10. これらの根幹となるのは、人材育成であり、以上の方針に合わせて、教育制度の抜本的改革を図る。

そして、これらは、決して目立たず、粛々清々と行い（即ち、覇権争いを決してしない！！）、謙虚な中で日本の良さを世界に浸透させていくことがポイントとなる。その具体策としては、

- 新・日英同盟の締結。これにより、表の秩序の管理人は、歴史と経験、ノウハウを持ち、日本が敵にしては決していけない国である英国に任せ、日本は実体経済で、汗を流して世界にお役に立つ立場を貫く。
- 見た目は小国ながらも技術力と資金力を持ち、また、情報戦も含めた軍事力では世界有数の国々である、スイス、イスラエル、シンガポールと緩やかな連携を取り、ディールバイディール、ケースバイケースでこれら 3 カ国のいずれか、或いは全てと連携をする。
- 米国や中国本土、或いはロシアと言った、所謂大国とは決して戦わない。しかし、一定の距離を保ちつつ、日本のアイデンティティを守る。

ということになるのではないか。

混沌深まる世界の中で、「真理を求める日本」が世界の浄化に向けての触媒となっていくことを目指していくことが、日本にとっても世界にとっても有益であると筆者は確信している。

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2021 Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.
Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan
Telephone: 81-3-3510-0882
〒103-0027　東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階
電話：03-3510-0882
e-mail: admin@iima.or.jp
URL: http://www.iima.or.jp